

学校法人 文化学園 川口文化幼稚園
令和4年度学校関係者評価 報告書

川口文化幼稚園 学校関係者評価委員会

令和5年7月

内容

1. 報告書骨子	2
2. 学校関係者評価委員	2
3. 学校関係者評価委員による自己評価への提言	3
3-1 保育の計画性	3
3-2 保育の在り方、幼児への対応	3
3-3 保育者としての資質や能力・良識・適正	3
3-4 保護者への対応	4
3-5 地域の自然や、社会との関わり	4
3-6 研修と研究	4
4. 学校関係者評価を受けて	5

1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、等委員会）は、「川口文化幼稚園 学校評価実施要綱」に基づき、項目別自己評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者により本校の学校運営・教育活動について検証・助言を得ることを目的として実施している。

当委員会の委員は外部委員のみで構成され、本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から選考し、委嘱している。委員構成は下記「2.学校関係者評価委員」に記載の通りである。

本報告書は、令和4年度の本校の取組みに対し当委員会としての評価・助言を得た内容をまとめ、作成したものである。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には多様なところ尽力いただき、深く感謝申し上げます。

2. 学校関係者評価委員

評価実施者：委員4名（企業関係者2名、保護者・地域住民1名、元教育従事者1名）

学校関係者評価 評価方法について

令和4年度の学校関係者評価は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面による方法で実施した。

配布資料：川口文化幼稚園 学校評価実施要項

項目別の自己評価結果表

学校関係者評価 評価記入シート

本園の教育目標

1. 幼児の心身の調和を図り、健全な心身の基礎を養う。
2. 基本的な生活習慣と正しい社会態度を育成し、豊かな情操を養い、道徳性の芽生えを培う。
3. 自然及び社会の事象について興味や関心を持たせ、思考力の芽生えを培う。
4. 人の話をきく正しい態度を養うとともに、ことばの正しい使い方を身につける。
5. 幼児に自主的、自発的な活動を促し、自立の精神を養う。
6. 幼児の心身の発達の実情をよく理解し、その個人差に応じて適切な指導を行う。
7. 家庭との連絡を密にし、家庭における教育と相まって教育の効果をあげる。

3. 学校関係者評価委員による自己評価への提言

令和4年度自己評価において、本校が設定している評価項目に対する委員からの提言は以下の通りである。

3-1 保育の計画性

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① ほぼ適切といえる。
- ② 保育の計画性について“7.保育と計画の評価・反省”以外の項目については職員間での乖離が大きいと感じた。特に、“4.指導計画の作成”においては総務課の職員と現場の職員とで認識に違いかあると感じたため、現場間だけでなく全体で意見をすり合わせたほうが良いのでは、と思う。
- ③ 教職員全員が一体となって、子ども達の保育環境や指導について、計画させておりほぼ適切といえる。
- ④ 打ち合わせ等をしっかり行い、保育の準備をしっかりと行っている。

3-2 保育の在り方、幼児への対応

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 適切といえる。
- ② 保育の在り方、幼児への対応については全体を通して素晴らしいと思う。“健康と安全への配慮”は、一見普通のことのようにも思えるが、昨今ニュースでは保育者による信じ難い事件事故もある中、真摯にご対応されている先生方には感謝の気持ちでいっぱい。“幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている”点も時代に合った対応だと思う。
- ③ 昨今の保育施設における、不適切保育が問題視されている中で、保護者の協力も得ながら子ども達ひとりひとりのことを理解し、その子に合わせた保育活動に取り組んでいる。
- ④ 現状できる中でしっかり対応していると思われる。

3-3 保育者としての資質や能力・良識・適正

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① ほぼ適切といえる。
- ② 保育者としての資質や能力・良識・適正については、個々の先生方の能力・良識・適正については何も問題ないと感じる。しかし、幼稚園全体の体制、運営、組織として見たときには少しまとまりを欠いている印象を受ける。現場での相違による行き違いを防ぐためにも、打ち合わせでしっかりと試験交換の必要があると思った。

- ③ 大人の“マネ”をすることの多い年頃の子ども達を保育する者として、子ども達の模範になることはもちろん、保育者としての専門的な知識や様々なリスクを回避するための行動（言動）を日頃から行えている。
- ④ 現状の人員の中ではしっかり対応していると考ええる。

3-4 保護者への対応

【学校関係者評価委員会からの提言】

- ① 適切といえる。
- ② 保護者への対応は“いつでも保護者と個別懇談がおこなえるようにしておく”“保護者の話を心を開いてよく聞く”ことをしてくれるので、保護者は安心して子どもを園に預け、何かあったら先生方に相談することができる。また、川口では様々な国籍の方がいるが、どの保護者にも平等に接していて保育者としてのプロ意識を感じる。
- ③ 保護者としては、わが子が元気に安全に園に通い、コミュニケーション能力や社会活動を身につけることを望んでおり、家庭では見えない園での姿を先生方から話を聞くことで知ること多いので、そのような対応をしっかりとできている点は評価できる。
- ④ 忙しい中しっかり対応していると考ええる。

3-5 地域の自然や、社会との関わり

【学校関係者評価委員会からの提言】

- ① ほぼ適切である。
- ② 地域の自然や社会とのかかわりについては、実際に子どもを園に通わせていた時に感じることは少なかった。もし必要があれば、小学校が行っているような、地域の方も見に来られる授業参観のような行事があってもいいのかもしれないが、セキュリティ面など実際は難しいことも多いと思う。
- ③ 教育機関や保育機関は地域の協力があって成り立つ部分も多く、地域との連携もしっかりとれ、園についてもオープンな環境を整えている。
- ④ コロナの中で、地域に出る機会は減っていると思われる。

3-6 研修と研究

【学校関係者評価委員会からの提言】

- ① 職員間で評価にかなりばらつきがあることが気になった。
- ② 研修と研究については、日々業務が忙しい中、さらに専門性を高める研修・研究をおこなうことは大変なことだと思う。ただ、“3.遊具・教材に関する研修・研究”に関して、総務課の方がもう少し知っても良いのではない

かと思った。保護者にとってはどの職員も“先生”と認識するので、現場のことをもっと踏み込んで知っても良いのでは、と思った。

- ③ 様々なことに興味を持つ年頃の子ども達に対し、それを補助するような教材を使用したり、教員による補助もされている。保育における課題にも園として向き合い、対処法や課題解決に向けた研修や研究をおこなっている。
- ④ 現状の人員と子どもへの対応に時間を取られる中で、できる限り研修・研究をおこなっていると思う。

4. 学校関係者評価を受けて

園内で実施された教職員による自己評価結果をもとに、外部委員の方々に学校運営ならびに教育活動について具体的なご意見を頂戴し、ご尽力いただいたことに感謝申し上げます。幅広い視野での提言は、内部からの視点だけでは見えていなかった点にも気づきを得ることができ、改めて外部評価の重要性を感じました。今回いただいた委員の方々からの提言で早急に取り組むべき課題を精査し、職員会議等で学内に共有し、次年度の改善目標とする予定です。特に、保育需要の変化へ柔軟に対応し、総合的な体制の強化を図っていきます。

今後とも自己評価ならびに学校関係者評価を継続して実施し、本学の教育環境のさらなる向上に努めていく所存です。